

令和2年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要  
畜産部門

究極の資源循環型酪農－牧草だけで超低コスト牛乳生産－

○氏名又は名称 石田 幸也、石田 美由紀

○所在地 北海道枝幸郡枝幸町

○出品財 技術・ほ場（放牧）

○受賞理由

・地域の概要

枝幸町は、北海道の道北地域に位置し、夏は冷涼で過ごしやすく、冬の降雪は200cmを超えるが、年間降水量は1,300mmと少ない。町の主要産業は漁業で、毛ガニの漁獲量は全国一である。農業では酪農が盛んで、農業産出額の97%を酪農が占める。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

夫妻は、資源循環型の放牧酪農を目指して平成7年に枝幸町へ入植し、採草地も含め化学肥料の無施肥を平成17年に、成牛への濃厚飼料無給与を平成25年に達成した。牛乳生産費を北海道指標の半分以下の水準に引き下げることで、高い収益性を実現している。また、放牧研修会を主催し技術普及にも努めている。

・受賞者の特色

(1) 牧草だけからの牛乳

高品質な牧草生産、放牧適性の高い牛群管理等により、牧草のみで1頭当たり年間乳量5,440kgと放牧主体のニュージーランド酪農の4,150kgを上回り、乳脂率も4.2%と高い飼養体系を確立した。飼料代、労働時間などの大幅な削減により、牛乳の生産費は北海道指標の半分以下となっており、所得率は北海道指標を大幅に上回り、ゆとりある高い収益性を実現している家族経営である。

(2) 自然循環に基づく自給飼料生産

夫妻は地域環境保全への認識が高く、草地に化学肥料を用いず、堆肥、発酵処理したふん尿、貝化石、炭カルを施用する低コストな自給飼料生産を行っている。放牧地の牧草密度は高く、また牛の嗜好性が高いマメ科牧草の割合が高く維持されている。

(3) 地域への貢献

幸也氏は平成15年に「もっと北の国から楽農交流会」を設立して、代表として研修会等を開催し新規就農希望者の支援に努めている。

・普及性と今後の発展方向

酪農経営の課題である飼料自給率向上、労働時間の低減の先駆的モデルとして、国際競争力にも十分に対応できる生産システムであり、土地制約の少ない地域における低投入で持続的な生産技術として発展することが期待される。